

temperature carbonization; technical discussion of the various types of modern coking installations; the control of such plants and the examination of coals.

Each lecture will be followed by a tutorial discussion on the scientific control of a by-product coking plant.

Fee: 15 s.

6. Instruction in Fuel Calorimetry and Pyrometry. (For a limited number of students who have already received some chemical training.)

The laboratory of the Department is opened.

Date: Jan. 21—Feb. 25.

Every Wednesday

6. p. m.—9. p. m.

6. Independent work in the Laboratory. (For more advanced students.)

During above periods.

Fee: 5 & 6 15s

(新村)

工業化學會第二八年常會

四月五日鐵道協會に於て開催されたる講演中

燃料に關係ある講演要旨次の如し

一、アルキル・ナフタリンに就て

大島 義 清君

巖 谷 一君

ナフタリン及酒精を原料とし縮合剤として鹽化亜鉛を使用するエチル・

ナフタリンの合成法を説明し鹽化亜鉛の量はナフタリンに對して一〇〇—

二〇〇%、酒精はナフタリン一分子に對し二分子を使用し三一〇—三二〇

度にて長時間又は三四〇—三五〇度に於て短時間操作すれば其得率最大な

りとし著者は其の生成物を數回精溜して之を三種に分別しβエチル・ナフ

タリン及二・エチル・ナフタリンを證明し各其性狀を明にし從來の文献の誤

謬を指摘せり

一、發熱量標準藥としての安息酸

大島 義 清君

木村 季 治君

山 岸 明君

發熱量の工業的測定に當り之が標準藥として使用に堪ゆべき安息酸の製造を企てたり、即一方には精製トルオールを過マンガン酸加里にて酸化して之を合成し他方には市販「化學的純」安息酸を水蒸氣蒸溜及再結晶にて精製し之等製品を融點檢定、アルカリ滴定及發熱量測定によりてカールバウム製發熱量測定用安息酸と比較せるに其差極めて少にして實驗誤差範圍内にあり依てかゝる方法にて容易に所期の目的を達し得るを認めたり

一、西山系石油ナフテン酸の成分

田 中 芳 雄君

永井 彰 一 郎君

既に數回に亘り發表せる石油ナフテン酸に關する研究の續報にして今回は主として越後西山系石油ナフテン酸の成分に關する發表にして主成分としてドデカ、トリデカ、テトラデカ、ペンタデカ・ナフテン酸の四成分を證明し、燈油ナフテン酸と輕油ナフテン酸とは同一なる事、次いで西山系ナフテン酸と秋田黒川系ナフテン酸とを比較し前者は後者に比し比重、屈折率共に著しく低き事を指摘し之が原因としては恐らくナフテン酸には多數の異性體の存在を想像し得べく此の點に關しては今後更に研究の歩を進むる由

一、クレゾール異性體の檢出法

大島 義 清君

香坂 要三郎君

低溫タール酸性分中のモノ・フェノール類の存在する一九七—二〇〇度溜分を用ひラデラー氏のクレソオキシ醋酸を用ひる分離法及びラッシュヒ氏法を用ひてオルト、メタ、パラの三異性體を檢出せる結果ラデラー氏法の缺點あるを指摘し純クレソオキシ醋酸の二成分系融點曲線を作成し之を利用せば此の缺點を補足し得べしと

一、減摩油の變質に對するテトラ・エチル鉛添加の影響